瀬谷中だより　９月号　　令和２年９月２８日

＜学校教育目標＞
○ 自ら学ぶ力の育成と基礎学力の定着　〔知〕
○ 他者を思いやり、礼儀や規律を重んじる態度の育成　〔徳〕
○ 生命を尊ぶ健康な心と体の育成　〔体〕
○ 社会に貢献し、様々な人と関わり合う態度の育成　〔公・開〕

発　行　横浜市立瀬谷中学校
校　長　熊野　一隆
副校長　村上　直幸
住　所　瀬谷区中央５－４１
TEL 301-0096　FAX 301-0099

「逆転」の可能性

副校長　村上　直幸

「令和」になって初めての夏、瀬谷中の部活動も大躍進を遂げました。陸上競技部・ソフトボール部の全国大会出場、水泳部・剣道部の関東大会出場をはじめとして、運動部、文化部とも各大会、コンクール等で入賞を果たすなど、日頃の成果が発揮されたことをたいへん喜ばしく感じております。生徒、保護者はもとより、地域の方々からも多くの激励や祝福の声をいただきました。誠にありがとうございました。

さて、先日テレビに目を向けると、連日開催されていた柔道世界選手権のニュースが流れていました。私自身、長年部活動の顧問として関わってきた競技でもあり、当時神奈川県代表として共に全国大会に出場した選手たちが、今、日本代表として活躍する姿を目にすると、自分自身も熱く指導にあたっていた時代を懐かしく思い出します。

子供のころからプロレスやボクシングのような格闘技が大好きで、よく見ていました。なぜかというと、勧善懲悪もので育ったおかげか、劣勢なヒーローが最後に必殺技で勝つ！というような「逆転」劇があるからでした。柔道も同じです。他のスポーツの中には、残り数秒ではどうしてもそれまでについた差を逆転できない競技もありますよね。でも、柔道は残り １ 秒でも技が決まることがあります。投げ技はもちろんですが、寝技の関節技や絞め技も極まるときは一瞬なので、それまでどんなに攻められ劣勢であっても最後に「一発逆転」の可能性が残っているんです。

でも、顧問・監督として選手にはこう伝えていました。「誰にでも平等にこの『逆転』の可能性があるわけではない」と。何もしない者が調子よく、都合よく、この「逆転」を期待して試合に出ても、決して「逆転」は起こらない。これは試合の大小に関わらず、区大会一回戦からオリンピックまで、どんな試合であっても、それまで一生懸命、ひたむきに努力した者が得られる可能性です。逆に言えばそれだけ努力したところで「逆転」できないこともあります。むしろその方が多いかもしれない。でも確実に言えることは、やっていない者には「逆転」はあり得ないということです。だから、やるんです。覚悟を決めたら、やるしかないんです。そういう人には、追い詰められたときに最後の「逆転」の可能性が残っている。

３年生の多くは部活動に区切りをつけて、これからは自分の進路に向けて目標を絞っていく時期です。２年生はいよいよ学校生活や部活動の中心になり、後輩を引っ張る時がきました。１年生は中学校に慣れてきて、これから活躍の場もさらに広がることでしょう。それぞれ与えられた場所で、「やる」のか「やらない」のか、それは自分が決めることです。ただ、どの生徒にも最後に「逆転」の可能性を残せる人であってほしいと願っています。頑張れ、瀬谷中生！

１０月の主な予定

２日（水）	個別支援級合同体育大会	２３日（水）	５校時：公開授業
７日（月）	文化祭開会式		14:50～　地区懇談会
１１日（金）	開校記念日	２４日（木）	個別支援級　合同学習会
１５日（月）	文化祭演示発表会	２６日（土）	拡大ハマロードサポーター
１９日（土）	土曜参観	３１日（木）	文化祭合唱コンクール
２１日（月）	10 月 19 日の代休		（厚木市文化会館）